

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

1. 教育学部・教育学研究科

研究 1-1

教育学部・教育学研究科

I	研究水準		研究 1-2
II	質の向上度		研究 1-3

Ⅰ 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究活動の実施状況については、平成 19 年度の教員一人当たりの平均研究業績数は、著書、論文、スポーツ・芸術の業績、学会発表を合わせて 4.31 件である。このうち著書と全国レベルの査読付き論文の合計は 185 件であり、1 名当たりに換算すると 0.9 件になる。研究資金の獲得状況については、平成 19 年度の科学研究費補助金の採択数（採択金額）が 32 件（3,663 万円）であり、そのうち新規申請は 66 件、新規採択は 13 件、採択率は 19.7%である。その他の競争的外部資金の受入れ状況は合計 10 件、約 1,015 万円となっている。科学研究費補助金の申請数、採択率、その他の外部資金の件数、金額も年々増加する傾向にあり、研究活動への努力が数値になってあらわれているなどの相応な成果がある。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、教育学部・教育学研究科において、教育・心理、特別支援教育をはじめ、人文・社会、自然さらに保健・体育、芸術の各分野で相応の優れた成果

を上げ、多様な専門分野における研究が展開されて、法人化以後の傾向として小・中・高等学校等の教育内容や教育方法と関連した研究や学校教育における諸課題の解決のための研究が増えている。研究業績水準判定のために提出された研究業績のうち、学術面において優れた水準にあると判定されたものにスプレー鋳造されたアルミニウム合金に対する ECAP の影響、吃音の進展した幼児に対する直接的言語指導に焦点を当てた治療がある。社会、経済、文化面において優秀な水準にあると判定された業績に『『FUGA（風雅）』・立体造形/彫刻作品.』があり、学術、社会両面における水準の向上が求められるが、法人化以後 国際学会誌掲載論文、学会賞受賞論文、国際的に水準の高い美術作品の創作等が増えてきており、研究活動が活発に展開されてきているなどの相応な成果がある。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が 3 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。

